



今年3月に白糠高校を卒業した早坂茜さん。4月からは当別町にある北海道医療大学へ進学する。心理職の国家資格である「公認心理師」の資格取得を目指して、大学へ進学する道を選んだ。釧路市で生まれた早坂さんは、父親の転勤により、幼少期を神奈川県や愛媛県で過ごし、中学2年生のときに白糠町へ転入してきた。「子どもの頃から引っ越しが多く、いろいろなところで暮らしながら、その地域ごとでの違いを肌で感じてきました。たとえば、私が幼稚園の頃、クラスメイトに外国の方

が何人もいて、そこではそれが当たり前だったのですが、私が転校した先の学校では、外国人が少なく、そのうちの一人は言語の違いから意地悪をされていました。前の学校でも言語の違いはあったのに、なぜこんなにも違うのだろうと驚きました。いろいろな人たちと関わる中で、育ってきた環境や地域の違いなどから、考え方が全然違うということを知りました」
人との関わりの中でさまざまなことを学んできた早坂さん。こうした経験が、心理学に興味を持つきっかけの一つになったのかもし

れない。白糠高校でも一つの出会いがあった。

「以前、白糠高校にいた養護教諭の長谷川郁子先生と出会い、先生の考え方を聞いて、憧れや尊敬を抱くようになりました。先生は『考え方や気持ちの持ち方ひとつで、人を元気にすることができる』といい、『人の心に興味があるのなら、心理学という学問があるよ』と教えてくれました。それで、大学へ行って心理学を学ぼうと思いました」

長谷川先生との出会いもあるが、白糠高校が早坂さんに与えた影響は大きい。

「私は努力することが一番大事だと思っています。努力をしたからといって必ず報われるわけではありませんが、少なからず自分のためになっていることを高校生活の中で何度も感じてきました。そう感じることでできたのは、白糠高校の先生方のおかげです。先生方は、私が努力していることに対して、全力で背中を押してくれました。本当にうれしかったです。また、白糠高校に進んだことで、久遠塾へも通うことができました。久遠塾では、町内で仕事をしている方から直接お話を聞くことができ、そこには自分の知らない世界がたくさんありました。そういう経験をさせてもらったことが、すごくありがたかったです。高校の先生や友達、久遠塾といった存在があったからこそ、今の自分があると思っています。そういう環境を与えてもらった自分は、本当に恵まれていると思います。白糠高校で過ごした3年間は、私にとってかけがえのない思い出です」

早坂茜

はやさか あかね

2002年7月14日生まれ。白糠高校卒業後、北海道医療大学心理科学部へ進学。高校では吹奏楽部に所属し、アルトサクソを担当。各校の代表者のみが出られる釧路地区管楽器個人コンクールで4位となる。趣味はピアノ。



「白糠高校での3年間は、かけがえのない思い出です」



友達に誘われて入った吹奏楽部。高校では部活を一番頑張ったという早坂さん。